

# かさかけ 公民館だより

編集  
笠懸公民館報編集協力員会  
みどり市笠懸公民館  
発行  
みどり市笠懸公民館

〒379-2311  
みどり市笠懸町阿左美1581-1  
電話：0277-76-2211  
FAX：0277-76-2836  
Eメール：kouminkan  
@city.midori.gunma.jp

## 特別賞を受賞！

### 『かさかけ公民館だより』

『かさかけ公民館だより』が、全国公民館連合会主催の第9回全国公民館報コンクールで特別賞を受賞しました。コンクールは2年に1度実施され、今回は応募総数92件の中から選考が行われました。賞の種類は、金賞・銀賞・特別賞・

奨励賞の4つがあり、特別賞は「審査員が優れていると認めたもの」に与えられます。『かさかけ公民館だより』は過去に、銀賞1回、奨励賞2回を受賞しており、前回の銀賞に続き2回連続の受賞となりました。

『かさかけ公民館だより』の作成は、市民からなる笠懸公民館報編集協力員（高野富由美会長）が行っています。編集協力員は10人で、月3回夜に公民館に集まり編集会議を行います。企画会議では、取材する行事の確認をし、担当者を決めます。公民館行事を中心に地域のイベントにも足を運び、担当者独自の切り口で記事を取り上げます。

編集会議では、時間をかけて念入りに原稿の読み合わせをします。和気あいあいとした雰囲気の中、みんな気兼ねなく意見を述べ、意味の分からない文章はないか、不適切な表現がないか等、原稿を丁寧に確認していきます。



▲特別賞の盾と公民館報編集協力員



▲編集会議での原稿の読み合わせ



▲取材する協力員

日頃から地域の出来事にアンテナを高く張り、編集協力員はカメラを片手に市内を駆け回ります。編集協力員会では、「文章を書くことは大変ですが、やりがいがあります。受賞を励みに次は金賞を目指したい」と次回のコンクールを見据えています。

『かさかけ公民館だより』では、市民の皆様からの投稿もお待ちしております。ぜひ、公民館まで記事をお寄せください。

※次頁に編集協力員の受賞コメントを掲載しています。

**館報編集協力員  
特別賞受賞コメント**

◆上山利夫さん 4区  
館報コンクールで特別賞受賞、大変うれしく思います。今後もコンクールで受賞できるようにがんばります。

◆小森谷玲子さん 10区  
会議もほぼ出られず原稿も月1本がやっとですが、できるだけ良いものを書いていきたいです。

◆下山和英さん 3区  
大変おどろいています。初回号より、読者に箸休めのな記事をと、自らの発案でコラム豆電球担当です。

◆高野富田美さん 7区  
奨励賞、銀賞、特別賞と4度選ばれ大変光栄です。協力員の活動の成果を評価して頂き、更なる活力と愛される館報にしたいです。

◆照井光康さん 7区  
今後も地域の催しを楽しみながら皆さんに関心を持ってもらえるような記事を書いていきたいと思えます。

◆土谷芳治さん 2区  
不言実行！  
そして  
高みを目指して…

◆仁田克洋さん 8区

みどり市に合併してから協力員になりました。つたない私ですが地域の情報を伝えていきます。よろしくお願ひします。

◆長谷川佳江さん 8区

館報に携わつての喜びはこれまで3度入賞した事。今年度は特別賞でした。ね。次回は金賞目指すのみ!!

◆藤生美代子さん 2区

「載つてうれしい公民館だより」をめざして、地域密着の話題を提供できたらと思います。

◆靱山巖史さん 2区

受賞できたことは驚きですが、取材の時にたくさんの方に親切にして頂いた事に感謝です。

**公民館だよりを  
一緒に作りませんか？**

館報編集協力員を募集しています  
興味のある方は笠懸公民館まで  
TEL0277-7612211

**みんなが集まるのが大事**

**利用者懇談会**

2月26日(日)午前10時から笠懸公民館交流ホールで、笠懸公民館と笠懸公民館利用者の会(上山利夫会長)の共催で利用者懇談会が行われました。参加者は利用団体代表者など40人でした。

今回は令和元年度以来3年ぶりの開催でした。

懇談会のテーマは「アフターコロナの公民館活動を考えよう」みんなで心のふるさと(公民館)を取り戻そう」でした。

開会行事では、コロナ禍で平成29年度に比べ、団体・サークル活動での公民館利用者は半減し、利用団体数も大きく減っている現状の説明がありました。また、利用者や団体数が減っている中で、公民館活動を活発にしていくにはどうしたらよいかについても話し合つてほしいと問題提起がありました。

次に、3つに分かれグループ討議が行われました。「サークルの活動で元気をもらえる。みんなが集まるのが大事」、「職員と利用者ももっと話ができる環境が必要」、「会員の高齢化が進み退会者が増加。会の存続が心配」、「公民館だより

に会員募集を載せたら会員が増えた。載せてみてはどうか」などの意見が出ました。また、公民館の利用について、「音楽室に網戸を設置してほしい」、「利用申込のルールを変えてほしい」、「暖房の効が悪い部屋がある」、「和室の畳を丈夫な素材にしてほしい」など様々な要望が出されました。



▲公民館長の開会のあいさつ



▲グループでの討議

最後の全体会では、各グループで出された意見の報告がありました。上山会長は、「みんなが公民館に集まるのが大切との意見に感謝した。利用者の声をじかに聞くのが一番。今後も続けたい」とまとめました。

# お母さんと一緒教室

## さあ、 鬼をやっつけろ!!

豆まき



▲鬼もこっそり一緒に記念撮影

お母さんと一緒教室が2月3日(金)公民館こどものお部屋で開催されました。薄曇りの寒い日でしたが、子どもたちは部屋の中を元気に走り回っていました。ちょうど節分の日で教室も豆まきです。みんなで鬼のお面を作ります。赤と青、黄色のお面があり、子どもたちはそれぞれ好きな色のお面を選んでいました。鬼のお面に色を塗り、輪を作って、頭にかぶれるようにしました。次に豆を入れる箱作りです。根岸先生が先に色紙で折ってくれた赤い箱に目や口を付けると、かわいい鬼の顔をした豆入れの出来上がりです。お面と箱をつけて芝生広場に出て遊んでいると、大きな赤鬼が現れました。突然の出現に驚き、泣き出す子、逃げ回る子、勇敢に戦う子。「さあ、鬼をやっつけろ!!」しばらく鬼と子どもたちの戦いは続きましたが、お母さんたちの手助けもあって鬼は負け、すぐごとと逃げていきました。「バンザイ!! やったねー!」お部屋に戻ると記念撮影です。やっつけたはずの鬼もこっそりとみんなの後ろから参加していました。



その後、おともだちのお誕生日会もありました。楽しかった豆まき、ちよっぴり怖かった鬼退治。お母さんと一緒教室も笑顔のまま終了となりました。

## 思い出いっぱい

文集づくり

お母さんと一緒教室は、2月17日(金)に1年間のしめくくりの「文集づくり」を行いました。子どもたちはこどものお部屋で遊び、お母さんたち

は別の部屋で文集づくりです。これまでの活動の記録写真を回ごとにまとめます。お母さんたちは、みんなで過ごした時を思い出しながら、写真を選び台紙に貼り付けていきました。「家ではできない色々な体験ができてよかった」「成長を感じますね」と感慨深げに語っていました。



▲真剣に写真選び

子どもたちは、4月から幼稚園などに入園予定。今回はお母さんと離れて遊ぶの時間を体験です。お母さんの顔が見えなくて泣きだ

したり、お母さんの顔を見に行って安心したりとソワソワした時間を過ごしました。次の回の3月3日(金)に文集原稿の仕上げをしました。

## コラム 豆電球



### 「硬貨の表はどっち?」

法律的な解釈でいうと決まりはないようだが、財務省では絵柄が描いてあるほうのようだ。

実は、明治30年までは新しい硬貨が発行されるたびに、**太政官布告**(法令を国民一般に知らしめるための公文書)でどちらが表かを公示していた。当時、硬貨には天皇の象

徴である竜紋が描かれていたので、当然のようにその竜紋のある側が表とされていた。

ところが明治30年以降、このような布告がなくなっただため、正式な裏表はなくなつた。しかし日清戦争後に「竜紋は中国的思想ではないか」という意見が出て、それまでは表とされていた竜門側が裏となり、菊紋のある側が表とされるようになった。その後、竜紋は使

第二次世界大戦後は、菊紋も使用されなくなり、そのかわりにさまざまな絵柄が描かれるようになった。そのため、現在でも財務省では絵柄が描かれたほうが表としているようだ。しかし、これは法律で決まっているわけではない。

ちなみに、お札は肖像のある側が表とされているが、これも法律的根拠はない。

## 文化・スポーツの功労者を表彰 生涯学習大会



▲功労者に賞状を授与

第17回みどり市生涯学習大会がグンエイホール・パルで2月12日(日)開催されました。教育委員会表彰、生涯学習活動紹介、生涯学習講演会と3つの内容があります。

まず、文化・スポーツ分野で活躍した児童・生徒・市民の功績を顕彰するみどり市教育委員会表彰です。保志教育長のあいさつの後、各個人への顕彰が行わ

れました。

生涯学習活動紹介では、みどり市とその周辺の地域を中心として演奏活動を行っている工誦吹奏楽団が紹介されました。年1回の定期演奏会をはじめとして、各地域の文化祭や施設演奏活動など、長年にわたって地域に根差した活動を行っています。この日も、素敵な演奏が披露され会場から惜しみない拍手が送られていました。

表彰者(敬称略)

※主な成績を掲載

藤生紗妃(笠西小5年)

## 笠懸9区が準優勝

### 上毛かるた県大会

3年ぶりの上毛かるた競技県大会が2月12日(日)前橋市のALSOKぐんま武道館で開催されました。団体と個人合せて218人の選手がトーナメント方式で戦い、そのうち11チームで行われた中学生団体の部ではみどり市笠懸9区が準優勝に輝きました。

1回戦で富岡市、2回戦で太田市に圧勝しましたが、惜しくも決勝戦で吾妻郡(原町地区)に敗退しました。

あと一步で優勝を逃した選手たちは喜びよりも悔しさが上かかもしれませんね。でも、立派な成績、胸を張ってください。



▲準優勝の賞状を手に

選手紹介(敬称略)

眞下愛琉(2年)

和田雄暉(3年)

長内柚姫(2年)

第12回全日本小学生ボウリング競技大会で小学5年生女子の部で第3位

令和3年度全日本女子ボウリング選手権ジュニア大会四日市大会のフェザー級で第1位

武井大也(笠南中2年)

畑佐光輝(社会人)

2022年度全国中学生ゴルフ選手権大会の中学生男子・個人の部で第3位

第22回全国障がい者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」の陸上競技知的青年男子400m競走及び800m競走で第2位

新井崇真(笠小6年)

※生涯学習講演会(講師・大山加奈氏)は、来月号に掲載します。

第42回全日本バレーボール小学生大会の男女混合の部で第3位

藤田朱音(当時・伊勢崎工業高等学校3年)

の部で第3位

## 防災を考える

28

### 地震への備え

いつ起こるか分からないのが自然災害。トルコの地震は、現地時間の午前4時頃で多くの人が寝ている時間だったようです。夜中、就寝中に災害が起こるとパニックになってしまいます。大きな地震の時には停電も心配です。枕元には懐中電灯、ラジオ、携帯電話を置いておくことをお勧めしま

す。また、倒れてくるような家具の近くで寝ない、落下物やガラスの破片を踏まないようにスリッパ(靴)を置いておく、もし部屋に閉じ込められた場合に居場所を知らせるためのホイッスル(笛)や停電時に自動点灯する足元灯や階段には蓄光テープを張るなど事前の対策は重要です。停電時に避難する場合は復旧後に火事になる場合があるのでブレーカーは落としておくことも忘れなく。

# 第23回フォト銀河写真展

2月17日(金)から19日(日)まで、笠懸公民館2階ロビー特設会場で、第23回フォト銀河写真展が開催されました。

コロナ禍に世界が騒然となる直前の令和元年12月以来、約3年ぶりの同写真展には写真クラブフォト銀河の作品32点と、ゲストの写学倶楽部の作品4点が展示されました。

特設会場なので照明等設



▲フォト銀河と写学倶楽部のみなさん

備は十分ではありませんでしたが、会場に集まった会員たちからは3年間待ちに待った思いが伝わりました。それぞれの作品も、秋の木漏れ日、冬の朝焼け、早朝の橋梁を走る電車などその場の空気感が伝わるものばかりです。

この3年間、外出制限の影響で撮影する機会は激減し、思うように作品が集まらなかったそうです。しかし、制限緩和後、社会の健康意識への高まりを背景に、旧会員の復帰や新会員の入会があり、その人たちの熱意もあって今回の開催にこぎつけることができたそうです。

カメラを片手に被写体を求め、街中や山野を歩き回るフォトウォークは一般的なウォーキングよりも楽しく健康効果が得られます。フォト銀河では随時会員を募集しています。興味のある方は笠懸公民館までお問合せください。

## 富弘美術館が やってくる 笠懸図書館

「感謝を込めて」富弘美術館がやってくる」という企画展が、1月27日(金)から2月15日(水)まで笠懸図書館で行われました。館内には富弘美術館所蔵の詩画(複製)10点の展示に加え、星野富弘さんに関連する本やCDを紹介するコーナーも設置されました。1月の週末には富弘美術館ミュー

ジウムショップによる本やグッズの販売もありました。来館者に話を聞くと「自分は五体満足なのに何もできないなと思ってしまっ。体が不自由になっても、このような素晴らしい作品を描き続けている富弘さんは本当にすごい。絵もそうだし書体についても初期の作品に比べると変わってきていると感じた。これからもずっと描き続けてほしい」と応えてくれました。

静かで落ち着いた図書館の雰囲気、富弘さんのや

## スマホで より便利に!! スマートフォン講座

みどり市企画課デジタル推進室主催の「スマートフォン講座」が2月8日(水)笠懸公民館で開催されました。

60歳以上の市民を対象に午前・午後の2部制で計27人が参加し、Wi-Fiの接続やLINEの基本操作を学びました。

みどり市公式LINEを

リニユールしたことを機により多くの市民に情報を伝え、行政サービスを利用してもらうために講座を企画。オンライン予約受付や道路の異常を通報したり、ごみ出しの通知などの機能が追加されたそうです。

5人の講師が、LINEを使ったことのない人や操作に不慣れた人に丁寧に教え、様々な質問に対応していました。

参加者は「LINEの友だち登録の仕方を教



▲図書館の一角が美術館に

さいい作品がぴったり合っていたことは新鮮な驚きでした。また、このような企画があるといいですね。

えてもらってよかった」「身近な災害情報を知れる」など喜んでいました。時代の流れでスマホ所有率が増加、上手に使うて豊かな生活が過ごせるといいですね。



▲LINEで連絡先交換

## パパと子どものクッキング教室

男女共同参画社会の実現を推進するみどり市は、普段料理をする機会が少ないお父さんたちに子どもと一緒に楽しみながら料理してもらおうと、2月19日(日)、笠懸公民館料理実習室で「パパと子どものクッキング教室」を開催しました。



▲支えるパパたち



▲まぜる子どもたち

講師は母国ウクライナでの戦禍を逃れ、現在みどり市に避難しているユディツカ・マリナーさんとボズコ・ヴォロジミールさんです。2人は耳が聞こえないため、国際手話、日本手話を交え、今回参加の9組の親子たちも身振り手振りで2人とコミュニケーションを

とりながら、ウクライナの家庭料理の作り方を教えてもらいました。

この日のメニューはヴィネグレットサラダ(ビーツとピクルスのサラダ)とウクライナ風パイ(お菓子)の2品。参加者たちはボズコさんから手話を教えてもらうなど国際交流を楽しみ、教室は多文化共生社会もテーマとした催しとなりました。

出来上がった料理はそれぞれの家に持ち帰ってもらいましたが、さてお母さんたちの採点はいかがだったでしょうか？

## 手話は見る言葉

### 手話体験教室

みどり市社会福祉協議会が開催した「手話体験教室」に行ってきました。2月8日(水)午後7時～8時までの1時間、手話に今まで触れたことのない人、興味がある人が対象です。16人の参加があり、ミニ講座、ゲームを行いました。講師はみどり市ろう者協会の尾池さんとサポートの青山さん。自身がろうあ者の尾池さんは、聞こえないことでの不便なこと、例えば情報が入ってこない、電話がで



▲手話でこんにちは

## 熱い闘い

### 小学生将棋名人戦

小学生将棋名人戦の、群馬県大会が2月5日(日)笠懸公民館で開催されました。毎年、日本中で3000人以上の選手が参加していて、羽生善治九段を始めとする数多くの棋士を輩出している大会です。

1年生から5年生までの

9人が参加し、リーグ戦で行われました。選手全員が集中して対局に取り組み、コマを指すたびに、各選手が持ち時間を計る対局時計を押す「カシャッ」という音が鳴り響いていました。

優勝者は、3月26日(日)に開催される、東日本大会に

県代表として出場します。

残念ながら、今回はみどり市からの入賞はありませんでした。

成績(敬称略)  
優勝

小林知生(前橋市)

準優勝

矢内里奈(伊勢崎市)

第3位

小松代拓末(高崎市)



▲大人顔負けの熱戦

最終和やかな雰囲気で、

「手話がうまくできなくても想像力と少しのユーモアで伝えることが出来ること。手話は目で見る言葉。会話をするときには相手の目を見て話してほしい」と尾池さんは教えてくれました。

きない、鉄道の車内アナウンス、ドライブスルーでの注文、エレベーターの非常通報ボタンなどについての自身の体験を話してくれました。その後は簡単な手話での挨拶や数字を勉強しました。最後に4人1組になり、空書き、口話、身振りを使っての伝言ゲームで声を使わずに伝えることの大変さを体験しました。

# 笠懸地域文化祭 参加者募集 !!



**開催日程** 10月14日(土)・15日(日)

**会場** 展示部門：笠懸公民館  
イベント部門：笠懸公民館および屋外周辺  
ステージ部門：グンエイホールPAL

**参加資格** 主に笠懸地域で活動している団体及び個人であり、実行委員会に実行委員を選出し、文化祭の運営に協力できること。

※実行委員は全3回の実行委員会に出席してください(要望)

**申込方法** 笠懸公民館にある申込書に必要事項を記入して、公民館窓口へ提出してください。

※複数の部門に参加する場合は、それぞれの部門に実行委員を選出してください。

**申し込みめきり** 5月31日(水) (厳守)

**その他** 新型コロナウイルス感染症の状況により、感染防止対策が必要となる場合があります。開催方法や感染防止対策については、実行委員会にて検討します。

**主催・問合せ先** みどり市笠懸公民館

## こえのひろば

このコーナーは、市民のみなさんの交流の場です。サークルの会員募集やイベントのお知らせ、投稿など、何でも原稿をお寄せください。(しめきり毎月10日)

### 上毛かるた①

御朱印レディー

#### 「このぶもの国 二子塚」

この札は1500年前まで遊る群馬の歴史を詠んだものです。「毛野国」とは、群馬と栃木のことで、後に



▲築瀬二子塚古墳

群馬のことを上毛野、栃木のことを「下毛野」と言い「毛」とは、稲などの農作物のことです。

「二子塚」は前方後円墳のことです。県内で古墳は13000以上もあります。

古墳ではありませんが、みどり市の遺跡では日本の歴史を変えた岩宿遺跡や西

鹿田中島遺跡が有名です。前橋市にある「上野総社

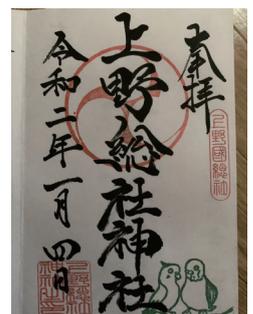
神社は、上野の総鎮守なり。国内総社社の神集ひ座す御

神地なり。上野総社神社を参拝するは県内各神社を参

拝せるにひとし」と言われています。

本殿は群馬県重要文化財の指定となり、他にも上野国神名帳・雲板・懸仏彌勒菩薩・懸仏普賢菩薩の4点が県の重要文化財となっております。

宮司さんに4点を見せて頂けないかお願いしましたが「蔵に大切に保管しており、お見せすることはできません。本殿も重要文化財なので、見てください」と話していました。



▲御朱印

## 笠懸短歌サークル

二月例会より



処方されし軟膏朝晩すり込みぬついでのこと夫の脚にも  
短歌なせぬ苦しき夢をたどりつつこれも歌材の一つと知りぬ  
先輩と呼ばれ昭和の歌謡曲唄ひ若やぐカラオケの会  
ちらほらと咲きはじめたる梅林を抜け暮参り小雨のポツリ  
うか入りし靴跡に芽吹き福寿草まず咲きたるは傷もつ一輪  
破鍋に綴蓋ふたり踏みこめば廊下の軋む音の親しも

上村 征子  
加藤 康子  
久保田 茂子  
近藤 ふさ子  
関口 定夫  
平山 勇

# 四季の会 三月句会

ひな飾り夫婦で食す桜鯛  
桜もち仏の夫に供へをり  
風ぐるま外れて直す児の仕事  
春めくや母の鉢植え忙しなく  
梅林に眠る先代猫の墓

芹摘みの婆のかご持つ吾子の笑み  
菜飯炊く隣家に持ち行くひとり分  
引越しの足どり軽く春の朝  
北窓を開けて空気の入れ替へす  
根芹切り窓辺で水耕いき生きと  
鉢植えの雛菊を買ふ道の駅  
娘のひな壇に餅を供へて娘を偲ぶ  
久に行く妻の実家の早ざくら  
春眠やチャイムの連呼友の顔  
孕み猫通り過ぎゆく我が狭庭  
梅林の帰りに寄りく犬の墓  
先代の猫が眠るや梅の花  
さくら草植え替へをする小さき庭  
初蝶の止まる日だまり風の中  
懐かしき母が出でくる春の夢  
菜の花を入れてパスタの昼餉かな  
梅の花生家の庭に八分咲き  
リハビリの車窓に見ゆる梅の花  
犬ふぐり藍の花いろ空の色  
芹を摘む実家の前の小さき川  
梅まつり妻に誘わる一日かな  
院のまど赤城連山春の雪  
春蘭の蕾ほつほつ見ゆる庭  
三月の風の中なる桐生川  
よもぎ餅嫁の手作りいと旨し  
飛び起きて足のけいれん春寒し  
九十路の母も驚く春の雷  
花菜漬け酸味の旨し京みやげ

荒井鳳仙花 国木美代香 中野千鶴 宮本風花 糸井良俊 松島陽春 平川秋楼 佐藤由美香 高野春蝶 高野邦女 中谷英磨 金井光詢 糸井佳酔 富田和 前原紫蘭 童鳥海 糸井梅光 横倉雅 韓百日紅 新羅光海 石原青蓮 冠二郎 徳田夕子 村田紅蘭 糸井初音 小井狐一 吉田和義 小林華笑 榎沢春蘭 宇野由希子 村田小町 宇野勘大 金野光月



## テクテクお城歩き(36)

### 浪岡城 歩遊人

浪岡城は青森県にある  
続日本100名城のひとつ。  
資料によれば城を築いた浪岡(北畠)氏は後醍醐天皇を助けた北畠親房、顕家の子孫と伝えられています。築城は1460年頃と推測され、浪岡川右岸に築かれ新館、東館、外郭(がいかく)、北館、検校館、西館、内館、猿楽館(能舞台があったと思われる場所)と8つの館に分かれ、深さ5mほどの二重堀で仕切られています。内館は城主が住んでいた本丸のような場所といえます。1562年、浪岡城は親

### お詫びと訂正

館報1月号の文章に誤りがありました。  
7頁掲載の四季の会一月句会の左から2首目の俳句。  
正々女礼者と長話し  
誤々女礼者と長話し  
お詫びして訂正いたします。

### 笠懸公民館のSNSのご案内

YouTube  
ユーチューブ



Instagram  
インスタグラム



▲浪岡城跡

族間での争いが起こり勢力が二分して衰えてしまひ、1578年、大浦(津軽)為信に攻められ落城したとあります。その後、約400年間田や畑となっていたといえます。発掘された遺物は「青森中世の館」に展示されています。

## ちょっと一息



たまたま富弘さん関係の取材が続いて思ったこと。

自分は富弘さんの出身である東町に20年以上住んでいたのもあって、友人が遊びに来ると富弘美術館と一緒にいたりする。富弘さんの詩画は、見るたびに共感や感動する作品が違って、行くといつもよかったなと思う。

今回の取材で改めて感じたこともあった。それは富弘さんの詩画は、どん底にいても人を喜ばせたい、笑わせたいという気持ちが原点にあること。そして、富弘さんのやさしさと明るさに包まれているということだ。

自分も余裕がなくなったり、そういう風に生きたいなと思う今日この頃。

